

分科会 A (午前) 9月27日(土) 9:15~11:45

分科会 A-1 コーディネーター 瀧澤 聡 氏 (北翔大学)

事例研究	日直ができないAさんの事例 【ブロック発表】	4年生のAさんは、人前での「発表」ができない。休み時間は元気に遊べるのに「不安」のスイッチが入ると話せなくなったり、動けなくなったりする。そんなAさんを支えてきた家族と、支援チームの試行錯誤をご覧いただき、ご助言をいただきたい。
	発表者 渡邊 輝子 (日高・胆振ブロック)	

分科会 A-2 コーディネーター 滑川 典宏 氏 (独立行政法人国立特別支援教育総合研究所)

教室運営	中学校の巡回指導教室開設の経過と子どもたち 【教室発表】	中学校教室の設置の要望の声が高まっていた大空町。親の会が存在しない中で、保護者の動きが錯そうする中、教室として取り組んだこと、開設による子どもたちへのメリット、課題は何かを紹介する。 後半は全道各地の教室新設に伴う問題点を交流したい。
	発表者 林一洋 北畑恵 今野里音 高川康 (オホーツクブロック)	

分科会 A-3 コーディネーター 谷戸 諒太 氏 (独立行政法人国立特別支援教育総合研究所)

実践報告	療育から通級につながったAさんの構音と対人支援の経過 【個人発表】	4歳のAさんはカ行音やサ行音の置き換わり等から言葉の伝わりづらさがあった。発音の課題に加え、注意の持続しづらさやマイペースさ、お友達との関わりのお少なさがある本児について療育から就学後の課題を共有し、幼児期に行える支援や関りの在り方を深めたい。
	発表者 村上 達郎 (石狩ブロック)	

分科会 A-4 コーディネーター 山下 公司 氏 (北海道教育大学札幌校)

事例研究	ことばや理解の曖昧さが気になるAさんの事例 【グループ発表】	音の聞き分けや理解、やり取りの噛み合わなさが心配な4年生のAさんは、曖昧なまま過ごす中で少しずつ自信が失われていった様子がある。ことばの教室では“わからない”を解決しようとする姿が見られ始めたAさんへの支援についてご助言いただきたい。
	発表者 中門 優里 (札幌ブロック)	

分科会 B (午後) 9月27日 (土) 13:00~15:30

分科会 B-1 コーディネーター 谷戸 諒太 氏 (独立行政法人国立特別支援教育総合研究所)

事例研究	落ち着きがなくイライラしてしまうAさんの事例 【個人発表】	小学校4年生のAさんは、時々落ち着かずイライラしてしまい、教室内を歩き回ったり、廊下に出てしまったりします。一時学校に行けない状態が続きましたが、現在は遅れて登校する等しています。Aさんの捉えや今後の指導の在り方について、ご助言をいただきたい。
	発表者 斗内 陽司 (後志ブロック)	

分科会 B-2 コーディネーター 瀧澤 聡 氏 (北翔大学)

事例研究	家庭以外ではほとんど話をしていないAさんの支援のあり方 【ブロック発表】	9歳のAさんは、家庭以外ではほとんど話すことができていない。ことばの教室でも笑い声は聞かれるものの担当者とは筆談やジェスチャーでやりとりをしている。ことばの教室としてAさんにどのような支援ができるのかご助言いただきたい。
	発表者 禎島 啓介 (留萌・宗谷ブロック)	

分科会 B-3 コーディネーター 齊藤 真善 氏 (北海道教育大学札幌校)

事例研究	怒りをコントロールするのが難しいAさんの事例 【教室発表】	怒りをコントロールすることができず、他人を傷つけてしまうことが多いAさん。他人の気持ちや行動を理解する力をつけてほしいと願い、指導をしてきました。高学年になり、自己理解をさらに深めていく手立てを考えるヒントをみなさんと一緒に考えたいです。
	発表者 二本柳 麻衣子 (空知ブロック)	

分科会 B-4 コーディネーター 池田 寛 氏 (さっぽろ子どもの聞こえ相談ネットワークを作る会)

事例研究	初心者が手探りで続けた構音指導 ~見えてきたAさんの心~ 【教室発表】	タ行音がカ行音に置き換わる等、複数の構音の誤りがあるAさん。担当はコロナ禍での通級1年目で、手探り状態で練習を続けた。4年目で、改善の兆しが見えてきたが、突然泣き出す等新たな困り感が出てきた。構音のゴールと心穏やかに毎日を過ごすためのご助言を頂きたいです。
	発表者 荒井 綾 (上川ブロック)	